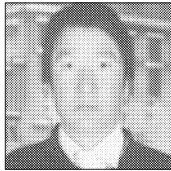


ソナム・ダルギェ 44才 死亡 2012/3/17



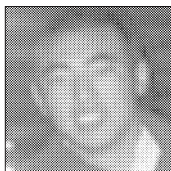
遊牧民。アムド、レブコンのロンウオ町の野菜市場近くで中国政府に対する焼身抗議を行った。警官に容易に連れ去られないように体には有刺鉄線を巻いていた。この3日前に焼身抗議したジャミヤン・ペルデンとは親しい友人だった。ソナムの抗議行動に続いて、地元のチベット人（僧侶と一般の市民）が大勢集まり、大規模な祈りの集会が行われた。

ロブサン・シェラブ（僧侶）20才 死亡 2012/3/28



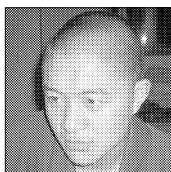
キルティ寺僧侶。アムド地方ンガバ、チャ郷の路上で焼身抗議。ンガバの武装警察は引渡しを求める家族の嘆願を無視して、彼の遺体を奪って行った。彼は9才のときにラルワ僧院ゲテン・テンペル・リンにて僧となった。前年10月、論理学を修めるためにンガバ・キルティ僧院へ入ったが、焼身の数日前に帰郷していた。おそらくは焼身を決意してと思われる。3月28日は中国の「チベット農奴解放記念日」であった。

テンパ・ダルギェ（僧侶）22才 死亡 2012/3/30



ツオドウン・キルティ寺の僧侶。アムド地方ギェルロン・バルカム（ンガバ州の州都）市内でチメ・パルデンとともに焼身抗議。テンパ・タルギェは2003年から09年までンガバ・キルティ僧院にて哲学を修めた。論理学とディベートクラスで最も優秀な僧侶として知られたが、その後ツオドウン・キルティ僧院に戻っていた。兄弟姉妹4人の末っ子だった。

チメ・パルデン（僧侶）21才 死亡 2012/3/30

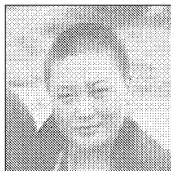


ツオドウン・キルティ寺の僧侶。アムド地方ギェルロン・バルカム（ンガバ州の州都）市内でテンパ・ダルギェとともに焼身抗議。2009年、哲学を勉強するためンガバ・キルティ僧院に在籍したが、わずか数ヶ月でツオドウン僧院に戻った。2010年ラサを訪れた際に公安当局の捜査を受け、携帯電話にダライ・ラマ法王の写真とチベット国旗、禁止された歌が入っているのを発見され、1ヶ月以上拘留されたことがある。

トウブテン・ネンダ（アトゥップ・リンポチェ）（僧侶）45才 死亡 2012/4/6



午前10時半頃、カム、タウ、ミニヤック地方ラガンのダクガル僧院近くの自宅でも焼身を行った。二人は焼けた部屋の中で、結跏趺坐の姿勢を保ったまま死亡しているのが発見されている。トゥブテン・ネンダは元ダクガル僧院長の高僧、アツェはその姪。数日前、トゥブテン・ネンダはそれまでに焼身したチベット人のためにバター灯明を灯して「私も彼らの偉業に続く」と家族に話っていた。彼は普段からチベットの文化と宗教を守ることに熱心で、姪のアツェもチベット問題に関心が強かった。



チュパック・キャブ 25才 死亡 2012/4/19

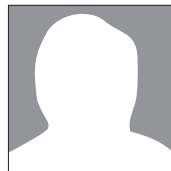
ソナム 24才 死亡 2012/4/19



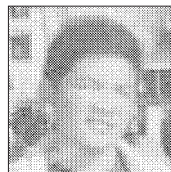
アムド地方ザムタン県バルマ郷。午後2時すぎ、ザムタン・チョナン僧院近くのマーケットで焼身抗議を行った。2人は従兄弟同士。周囲のチベット人たちはすぐに回りを囲み、武装警官たちが彼ら連れ去るのを阻止した。僧院に担ぎ込まれた後、しばらくして死亡した。2012年2月19日にナンドルが焼身した同じ場所だった。2人はチベットの自由と仏教が栄えること、有情の幸福と世界平和を願う、連名の遺書を残した。バルマ郷では1月26日に当局が抗議デモに発砲し、ウゲンという若者が死亡している。

ダルギェ（元僧侶）25才前後 生存 2012/5/27

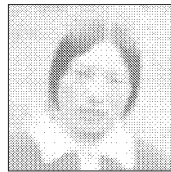
ドルジェ・ツェテン 19才前後 死亡 2012/5/27



チベット自治区ラサでは初めての焼身抗議。午後2時すぎ、ラサのジョカン寺に向かいながら焼身した。1人は炎に包まれながらジョカン前のタルシン（タルチョの柱）の傍まで走り、もう1人は10歩ほど歩いて倒れた。現場は武装警官によって封鎖、外人旅行者たちもホテルでカメラをチェックされた。その後600人以上のチベット人が当局により拘束、ツェル・グンタン拘置所に送られた。死亡したドルジェ・ツェテンの故郷ボラでは、3月20日にボラ僧院僧侶約100名による抗議デモが発生し、多くの僧侶が逮捕されている。

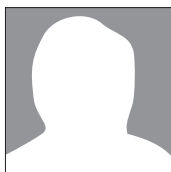


リキョ（主婦） 36才 死亡 2012/5/30



アムド、ザムタン県バルマ郷。遊牧民で、幼い子供3人の母親。この日、家畜の世話をした後にチョナン僧院へ向かい、焼身抗議、死亡した。保安部隊は消火後に遺体を運ぼうとしたが、大勢のチベット人が阻止して僧院に運んだ。当局が当日中に葬儀を行わない場合は遺体を奪いに行くと言ったために葬儀は夜中に行なわれ、5000人以上が参列した。彼女は同胞に団結してチベットの文化を学ぶように、また「生きとし生けるものの苦しみを引き受ける」と語る遺書を残している。

タムディン・タル 64才 死亡 2012/6/15



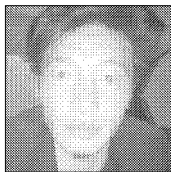
アムド、チェンツァ県。人民武装部前で焼身抗議。ガソリンを飲み、焼身後に運び去られないように体に鉄条網を巻いていた。もとはレウ村の遊牧民。数年前に「遊牧民移住計画」に従い、市街に移住させられた。遺書には「世界に平和が実現されることとダライ・ラマ法王がチベットにご帰還されることを願い、チベットの国家が自らの領土を治めるために、私は自らの身を灯明と化し捧げる」とあった。

ンガワン・ノルペル 22才 死亡（上） 2012/6/20

テンジン・ケドゥップ（元僧侶） 24才 死亡（下） 2012/6/20



カム、ジェクンド。午後3時半頃、雪山獅子旗（チベット国旗）を手に焼身抗議。ンガワン・ノルペルはアムド、ンガバの出身。テンジン・ケドゥップはジェクンド州ティドゥウ県ニヤンツォ郷出身、もとシルカ僧院の僧侶で2006年に還俗。2人の遺書には「チベット民族と特にダライ・ラマ法王が千年万年と生きられること、またダライ・ラマ法王がチベットにご帰還されることを願い、われらの身を捧げる。また、チベット人同士が連帯して、チベット人としての誇りを守ることを願う」と書かれていた。



デキ・チュゾム 40才前後 生死不明 2012/6/27



カム、ジェクンド。この日、ケグ町の市場では、当局が大地震（2010年4月）を利用し、再開の名のもとにチベット人の土地財産を取り上げていることに抗議するデモが行われていた。デキはこのデモの最中に焼身抗議を行った。保安部隊はすぐに彼女を囲み、火を消して遺体を運び去った。

ツェワン・ドルジェ 22才 死亡 2012/7/7



ダムシュン県ダムシュン。午後1時頃、ダムシュンの庁舎近くで焼身抗議。炎に包まれながら「法王に長寿を！」と叫びながら100Mほど走り、倒れたという。現場は人通りが多く、当局はその場の目撃者をほぼ全員拘束した。